



香辛料でいっぱいのスリランカ人実習生の台所の引き出し。100円ショップのタッパーを使って上手に整頓しています。

# あじけん通信

2019 September  
VOL.141

株式会社きぼう国際外語学院  
企画・編集 澁谷 健司

9月に入りました。先日、あるインドネシア人実習生に、「日本の生活にもう慣れましたか？」と聞いたところ、「日本の天気には慣れません。朝は寒かったのにお昼は暑いです。昼は晴れでも、午後から雨です。昨日はととても暑い、でも今日はととても涼しいです。どうしてですか？」と逆に質問されてしまいました。日本人からすれば、これは季節の変わり目、まもなくやってくる実りの秋・収穫の秋への通り道で、毎年のことと受け止められても、来日したばかりの実習生の皆さんの中には、日本の天候を「ふしぎだ」と感じる人がいることを知り、新たな気づきとなりました。そして、春夏秋冬とともに気候や暮らしが変化する日本の生活に慣れるには、最低でも1年間の異文化体験の連続が待っていることを実感しました。実習生の皆さんが、この1年間の荒波を乗り越え、自分達の文化を守りながら、しっかり日本の生活に根付けるように、1ヶ月という限られた時間ではありますが、これからも日本語学習の面から、皆さんの日本での実習生活をサポートしていくために、講師・スタッフ一同、残暑に負けず！精一杯取り組んでいきたいと思えます。

## あじけんスコープ Vol. 78 小山市総合防災訓練参加

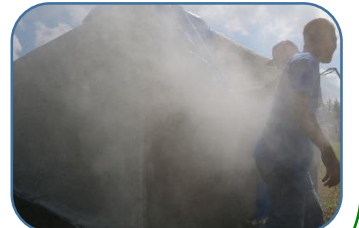
9月7日(土)本校の実習生が、小山市総合防災訓練に参加しました。この訓練は小山市で大きな災害が起きた想定で、近隣の市町村も含めて行なわれた大規模な総合非難訓練(訓練参加総数750名)で、今回は小山市を震源としたマグニチュード6.9の直下型、最大震度6強の地震が発生した想定で行なわれました。本校からは地域在住の外国人避難者役として、40名の実習生が参加しました。日本人の誘導に従い避難する練習や、起震車での地震体験、火災煙体験などにもチャレンジし、実習生の皆さんにとっても貴重な経験となりました。



係りの誘導に従って避難する実習生の皆さん



起震車による地震体験



煙体験に挑戦する実習生

## 今月の実習生

今月は、当校初の受入となったスリランカからの実習生ガヤンさんと、トゥシャンさんの2人を紹介します。

2人はとても真面目で、勉強熱心。日本語コミュニケーション能力も高く、他の国から来たクラスメイトとも直ぐに打ち解け、授業中、休み時間を問わず積極的に会話をしています。気配りも素晴らしく、スリランカの料理について質問すると「先生、是非食べに来てください」と、食べきれないほどのカレー料理でもてなしてくれました。母国から持参した様々な香辛料をミックスして作る本場のスリランカカレーは、スパイスがしっかりと効いていて、なんとも言えない風味がありながら、決して辛過ぎない格別な味わいでした。



FERNAND SAKRATHIGE JUDE

GAYAN MADHUSHANKA(ガヤン)さん: 向かって左

JAYASURIYA ARACHCCHIGE

THUSHAN DILRUK(トゥシャン)さん: 向かって右



テーブルいっぱいには並んだカレー料理。スリランカではこうして毎食カレーが食卓を彩るそうです。



主食のライスに好きなカレーを乗せて手で混ぜ食べるのがスリランカ風。



## あじけん流日本語授業 ～新グループ会話練習～

今月のあじけん流日本語授業は、実践的なコミュニケーション活動の一環として取り入れられているグループ形式の会話練習を紹介します。

まずは、クラスを適当な数のグループに分け、各グループで話し合いをリードする司会者役1名、自分達のグループの話し合いの内容を記録して、その内容をクラスメイトに報告するレポーター役の実習生1名を決めます。次に、その日のモデルグループが講師から与えられたテーマに従って、司会者を中心に、話し合いを進めます。他の学習者はモデルグループの会話を見学し、自分達の話し合いの参考とします (STEP1)。

その後は、STEP 2 ⇒STEP 3 ⇒STEP 4 の順に活動が進められていきます。

**STEP1:**モデルグループの話し合いの様子を見学する

**STEP2:**モデルグループの会話を参考に、各グループに分かれて話し合う。



**STEP3:**レポーター役の実習生がグループでの話し合いの内容をクラスに報告する。

**STEP4:**レポーター役の実習生がレポートの内容に関する質問に応じる。



この活動でポイントとなっているのが STEP1、各グループでの話し合いの前に、モデルグループの話し合いを見学させる点です。これまでのグループ会話練習に新たにこの活動を加えたことで、クラスメイトから質問の仕方や、自分の考えの伝え方を学ぶことが出来るため、その後のグループ会話が今までよりもスムーズに行なえるようになりました。また、モデルグループは、クラスメイトの注目を浴びることで、程よい緊張感があり会話練習への意欲が向上する効果もあります。6グループある場合は、6日間かけて、モデルグループを交代していき、全てのグループがモデルグループを経験できるように配慮すると、毎日のグループ会話練習に変化が付けられるので、モチベーションの維持にも役立っています。